

～「住みやすさ」と「幸福感」は何が異なるのか？～

令和6年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：自治体政策からみた「住みやすさ」と「幸福感」の関係性の分析
～町民アンケート結果を活用した施策への反映可能性の検討

研究代表者：宮古短期大学部 和川央

課題提案者：金ケ崎町

研究メンバー：小原弘子（企画財政課長）、折笠祐司（企画財政課長補佐）、
千葉春希（企画財政課主査）

キーワード：ウェルビーイング、住民意識調査、施策満足度

▼研究の背景と目的

✓金ケ崎町では「住みやすさ」の向上を目指して施策を展開し、町民アンケートでその推移を把握してきたが、必ずしも調査結果の分析は十分ではない。

✓①「住みやすさ」と施策の関係、②近年注目が集まる「幸福感」と「住みやすさ」の関係が明確でない。

✓調査結果を具体的施策展開につなげるため、自治体が住民意識調査の実態を把握するとともに、①と②を明らかにしたい。

▼研究の内容

1. 県内市町村の住民意識調査の現状把握

✓岩手県内の市町村を対象に、住民意識調査の実態調査を実施

✓対象市町村33、回答数21（回収率63.6%）、うち過去5年間で住民意識調査を実施した19市町村が集計対象

2. 「住みやすさ」と「幸福感」の差の検証

✓金ケ崎町が実施した町民アンケートの調査結果を分析することで、研究課題①、②を検証

✓2024年3月実施、調査対象者数1,000人、回収数607人（回収率60.7%）

表1 「幸福感」と「住みやすさ」の相関

	幸福感	住みやすさ
幸福感	1.00	0.44
住みやすさ	0.44	1.00

表2 「幸福感」と「施策満足度」の相関（上位5位）

順位	相関	設問
1	0.39	健康の実感
2	0.38	地域の人との関わり満足度
3	0.36	収入の満足度
4	0.36	高齢者、障がい者支援の満足度
5	0.35	地域で頼れる人がいる実感

表3 「住みやすさ」と「施策満足度」の相関（上位5位）

順位	相関	設問
1	0.48	安全安心で快適な生活の実感
2	0.45	生活環境の整った宅地開発満足度
3	0.41	新しいことへチャレンジできる実感
4	0.41	雇用の確保の満足度
5	0.41	学校での国際理解教育の満足度

▼研究の結論と考察

1. 県内市町村実態調査の結果

✓県内市町村では、金ケ崎町と同様、住み続けたいか、住みやすさ、など定住に関連した総合指標を把握する市町村が多い

また、幸福感、生活満足度などのウェルビーイングを把握する市町村は5割以上

✓金ケ崎町と同様、個別施策に関する満足度を把握する市町村は7割以上

✓調査結果の分析は単純集計、属性別クロス集計に止まる市町村が多い

設問間の相関分析等の統計分析を行う市町村は1割程度であり、調査結果が有効活用されないという課題は、全国より県内の方が深刻である可能性

2. 「住みやすさ」と「幸福感」の差の検証

①表1：幸福感と住みやすさの相関分析

✓両者の相関係数は0.44と一定の相互関係は確認できるものの、強い関係性は確認できない。よって、「幸福感」と「住みやすさ」の実感は異なる内容であると判断できる。

②表2,3：幸福感、住みやすさと施策満足度

✓「幸福感」と相関が高い施策は、健康福祉、人とのかかわり、収入である。それに対し、「住みやすさ」の実感と相関が高い施策は、生活環境、雇用、教育分野と幅広い。

✓「住みやすさ」と「幸福感」は自治体の政策目標として異なる総合指標であり、金ケ崎町のように、両者を同時に把握することは意義がある。